

特集

手術

に携わる人たち

最先端技術を万全な体制で提供するために

当院では、日々、数多くの手術が行われています。患者様に安心して手術を受けていただくために執刀医だけでなく様々な職種のスタッフがチーム一丸となって徹底した安全管理のもとに手術を行っています。スタッフ全員がそれぞれの職責を全うし、お互いを信頼しあい、「患者様の回復」への強い意志を持って臨んでいます。

横浜市立大学附属病院では、入院患者様の手術を行う中央手術室12室、外来患者様の手術を行う外来手術室2室、前立腺がん小線源治療専用の手術室1室、合計15の手術室を運営しています。

平成18年度では、約4,600件の手術が行われ、そのうち600件が緊急手術でした。日々、多くの手術を安全に行うために、手術室内外で様々な職種のスタッフが協力して働いています。今回の特集では、『手術に携わる人たち』を紹介します。

手術チーム

手術チームは患者様に手術を施す術者(各科医師)と麻酔科医、サポートする看護師、臨床工学技士で構成されています。それぞれが役割を遂行し、知識と技術を分かち合いながら、万全な体制で手術に臨みます。

術者(各科医師)……写真1/ABCD

当院では外科を始め、19の診療科が手術を行っています。術者は通常2〜4名のチームを組んで手術に臨み、その役割によって執刀医・第1助



▲写真1:実際の外科手術の風景。左から、手術室看護師(F)、術者(A・B・C・D、4人ととも外科医)、麻酔科医(E)。上には「无影灯」、左隅には「手術器械」が並べられています。麻酔科医の後ろには「麻酔器」、右隅が「生体情報モニター」。

術者の入室準備

手術室に入室する医師達は、更衣室で術衣、マスク、キャップ等を着用します。

術者は、手術室に入る前に指先から肘まで入念に洗浄します。爪の間や指先はブラシで洗い、仕上げにアルコール消毒をします。

手洗いが終わり、いざ手術室へ。手が機械などに触れないよう、ドアを開けるときはフットスイッチを使ったり、背中でのスイッチを押して、手術室へ入ります。

手術準備完了

手術室内で、滅菌ガウンと手袋を着用します。滅菌ガウンは間接看護師の介助を受け着用します。

空気もクリーンで安心!

手術室内の空気は短時間に入れ替わるように設定されています。1時間に数十回の換気がなされ、数分でホコリを除去します。最も高性能な室では1時間に150回の換気がなされ、2分間でホコリを除去することができます。

また、室内の気圧は廊下より高く設定され、廊下の空気が室内に流れこまないようになっています。

複数回洗浄後滅菌された器械は、清潔を保つため、クリーンホールと呼ばれる換気設備の整ったスペースで次の大仕事に備えられます。

患者様にとって、手術はとても不安なものです。当院では、患者様に安心して手術を受けていただくために、徹底した安全管理のもとに手術を行っています。手術に携わるスタッフ全員が、質の高い安全な医療のさらなる向上を目指し、取り組んでいます。



▲写真2:心臓手術。左側には、「人工心肺装置」、操作している人物が臨床工学技士(ME)。

臨床工学技士(ME)……写真2/G
心臓手術の際、人工心肺装置を動かしているのが臨床工学技士(ME)です。MEはMedical Engineerの頭文字で、その名のとおり医療機器の専門家です。手術には様々な医療機器が用いられ、その種類は年々増加し、複雑になっています。2〜3名のMEが手術室に入り、ほとんどすべての医療機器の保守管理を行います。

また、医師の指示のもとに人工心肺装置などの操作も行います。

周りでサポートする人たち

縁の下で手術を支えるスタッフがいまます。患者様と直接、顔を合わせることはありませんが、器械や薬品の安全管理、衛生管理を徹底しています。

薬剤師

手術室には、専属の薬剤師がいます。手術時、麻酔に使用する薬剤は様々な種類があり、薬剤師による管理が欠かせません。

器械類の洗浄担当者

手術に使用したメスなどの手術器

械の洗浄や管理を専門に行っています。刃先が数ミリのメスなど細かく壊れやすいものも多数あり、次回の使用に差し障りのないよう丁寧に洗浄しなければなりません。

手術室清掃担当者

血液などが付着した室内を速やかに清掃し、いつも手術室を清潔に保ちます。また、手術前に手洗いをを行う装置などの衛生管理も行っています。

手術室専任医師

当院には手術室全体をコントロールする専任の医師がいます。手術のスケジュール調整、安全管理、感染防御、物品管理など手術に関するあらゆる調整・監視を行います。

手・第2助手と呼ばれます。執刀医だけがスーパードクターでも助手の的確な補助がないと手術を円滑に行うことはできません。逆に若手の医師が執刀医の場合、ベテランの医師が助手としてうまくリードすることにより、手術を安全に行うことができます。チームを組むことによって高い安全性と質を維持します。

麻酔科医……写真1/E
麻酔開始から術後の覚醒まで、ずっと患者様に寄り添って守っているのが、麻酔科医です。当院には約30名の麻酔科医がおり、局所麻酔を除くすべての手術において患者様の全身管理を担当しています。

手術中、麻酔がかかった患者様は自分では体をコントロールすることはできません。麻酔科医は患者様の意識と痛みをとるだけでなく、手術の状況と心電図・血圧などを見ながら、人工呼吸器による呼吸管理、輸血・輸液や薬剤を用いた循環管理、体温管理などを、患者様からひと時も離れる事なく行います。まさに患者様の「安全を守る要」といえます。

手術室看護師……写真1/F
看護師は通常2名一組で手術に臨みます。1名は直接介助という役割で、術者と同じようにガウンと手袋を着用し、手術に使用する何十・何百という手術器械を術者に手渡します。手術の進行状況をみながら次に術者が必要とする道具を先読みして準備することで手術が円滑に行われます。

もう1名は間接介助という役割で、術中の患者様が無理な姿勢をとってないか、体温が下がっていないかなど、の観察を行いながら、麻酔科医の介助